

中学・高校生喫煙者へのニコチン置換療法の効果について

神奈川県保健福祉部 鈴木 仁一・鎌倉保健福祉事務所 辻 恵・藤沢市保健所 原田 久

【目的】鎌倉保健福祉事務所において無償で未成年禁煙希望者にニコチンパッチ（以下パッチ。）処方を行い、その効果について検討したので報告する。

【方法】平成 17 年 7 月から平成 18 年 7 月までに、禁煙支援の講演を行った神奈川県内の 7 つの中学校・高等学校の生徒で禁煙希望者を対象とした。保護者の承諾後、分析項目を聴取し、パッチ（商品名：ニコチネル TTS30）7 枚を無償で処方した。分析項目は年齢、性別、同居家族・友人の喫煙状況、FTQ スコア、喫煙本数、過去の禁煙状況等である。パッチ処方より 1 週間後、1 ヶ月後に学校の指導担当者を通じて、調査票を用いて、喫煙状況、パッチの使用有無を確認した。対象者数 57 名のうち、1 週間後及び 1 ヶ月後にデータ解析可能なそれぞれ 38 名（66.7%）、36 名（63.2%）について SPSS11.0 J を用い、Fisher 検定と Mann-Whitney 検定を行った。

【結果】当初の対象者数は 57 名で、そのうち男性は、39 名（68.4%）であった。平均年齢 16.0 歳（14～20 歳）、平均 FTQ スコア 4.7、1 日あたりの平均喫煙本数 16 本以上は 31 名（54.4%）であった。40 名（70.2%）が過去に他の方法で禁煙を試みたが失敗していた。50 名（87.7%）に一人以上の喫煙する家族がいた。友人の半数以上が喫煙者と回答したのは、41 名（81.9%）であった。1 週間後及び 1 ヶ月後に追跡可能であった者は、38 名（66.7%）と 36 名（63.2%）であり、その内それぞれ 10 名（26.3%）と 10 名（27.8%）が禁煙していると回答していた。（図 1）（図 2）追跡ができなかった者を禁煙失敗とみなすと禁煙成功率は 17.5%であった。1 週間後の分析項目で「友人の喫煙割合が低い」場合（ $p<0.05$ ）と、「パッチの使用枚数が多い」場合

（ $p<0.05$ ）は、禁煙成功と有意に関係があった。1 ヶ月後の禁煙継続で有意の関係がある分析項目はなかった。パッチ貼付による副作用と思われる頭痛、皮膚トラブル、不眠、気分不快などの訴えが、それぞれ 1 名から 4 名あった。

図 1 禁煙状況と各因子の比較 1 週間後（n=38）

	禁煙中	禁煙失敗	計（成功率）	オッズ	95%信頼区間	P値(Fisher)
合 計	10	28	38(26.3%)			
男	7	19	26(26.9%)	1.11	(0.23-5.30)	0.615
女	3	9	12(25.0%)	1.00		
友人の喫煙者割合						
なし	0	0	0(-)			
	7	9	16(43.8%)			* Mann-Whitney 検定
半数未満	2	4	6(33.3%)			P=0.017 有意差あり
半数以上	1	15	16(6.3%)			
ほとんど全員						
ニコチンパッチ						
あり	8	16	24(33.3%)	3.00	(0.54-16.8)	0.184
なし	2	12	14(14.3%)	1.00		

図 2 禁煙状況と各因子の比較 1 月後（n=36）

	禁煙中	禁煙失敗	計（成功率）	オッズ	95%信頼区間	P値(Fisher)
合 計	10	26	36(27.8%)			
男	5	19	24(20.8%)	0.37	(0.08-1.67)	0.178
女	5	7	12(41.7%)	1.00		
友人の喫煙者割合						
なし	0	0	0(-)			
	5	5	10(50.0%)			* Mann-Whitney 検定
半数未満	2	5	7(28.6%)			P=0.059 有意差なし
半数以上	3	16	16(15.8%)			
ほとんど全員						
ニコチンパッチ						
あり	7	15	22(31.8%)	1.71	(0.36-8.15)	0.389
なし	3	11	14(21.4%)	1.00		

【まとめ】喫煙している中学生・高校生に対する禁煙指導 1 週目の禁煙について、ニコチン置換療法と友人の喫煙状況が関連する。禁煙指導 1 ヶ月後の禁煙継続には、関連する因子はなかった。

中学生・高校生の禁煙状況を追跡する方法を今後検討する必要がある。